

学校法人 聖ヶ丘学園 うみの風保育園

施設のアピールポイント及び課題 【平成 29 年度】

	アピールポイント	課題
I 利用者本人の尊重	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と連携を取り合い、子どもが安心して過ごせる保育を行っている。 ・子どもの心に寄り添い、思いや行動ひとつひとつを大切に保育が育っており、考えも尊重している。 ・子どもの意志や思いを尊重しながら保育をし、主体性、自主性を大切にしている。 ・子ども達の思いを尊重し、自主性を大切に一人ひとりに合った生活リズムや食習慣を把握した発育、発達に適した生活を安心して過ごせるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への配慮を促し保育の質に関しては、保育園の良さや課題を把握し改善のための具体的な取り組みを明示して指導するよう努める。 ・配慮を要する子どもや子どもへの虐待の疑いがある場合は、関係機関と情報を共有しながら対応するように努めている。
II サービスの実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・法人、保育園の理念に基づいた保育感を持ち全園児に対応した運営を行っている。 ・散歩や屋外活動を積極的に取り入れ戸外活動を充分に行っている。 ・子どもの年齢や発達に合わせた言葉掛け、援助を心掛け、人格を尊重する姿勢を持って、丁寧に関わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理念や基本方針の周知状況の確認を把握し、継続的に取り組んでいるが、断片的にならないよう内容の充実を図る。 ・子ども達の園での様子や園の行事等の様子を様々な方法で保護者に伝え理解してもらっている。
III 地域支援機能	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との交流を広げる為に散歩時、親子に「一緒に遊びませんか？」と声を掛けている。絵本を貸し出すことで、身近に相談が出来たり、立ち寄ることができるような場所になるよう努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にアピールする工夫や情報提供する方法を考え浸透することが必要である。 ・地域の子育て親子に向けて、子育てに対する考え方やノウハウなど、保育園の専門性を生かした子育て支援サービスの提供を考えている。
IV 開かれた運営	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに関する相談や援助の一環として、絵本貸し出しや施設見学者に対して、子育て情報を提供し利用者に安心感を与えている。 ・保護者からの質問に対し、担任のみならず、主任、園長を含め、丁寧な回答を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育サービスのニーズの多様化により幅広い専門性が求められている中で、職員間で今以上に学び合い情報を収集する工夫を生み出したい。
V 人材育成・援助技術の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に研修会に参加したり、職員間で意見交換し、保育の質の向上するよう取り組んでいる。 職員に合わせた研修を行なって報告をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な自己評価を実施しているが、自己評価の人材育成課題の解決や面接の際の職員要望に応えるよう努める。
VI 経営管理	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの最善の利益を考慮し、業務の効率化と改善にむけて、人事労務、財務等の面から分析を行い実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業運営の透明性の観点等から更なる経営及び運営状況等の情報公開と保育展開に努めていく。

評価票

事業者名 うみの風保育園

平成29年度

評価領域 I 利用者（子ども本人）の尊重

評価分類 I - 1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成

評価項目 I - 1 - (1)

保育の理念や基本方針が利用者本人を尊重したものになっており、全職員が理解し、実践しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育の理念や基本方針が利用者本人を尊重したものとなっている。	
	<input type="radio"/> 全職員が基本方針を理解している。	
	<input type="radio"/> サービスの実施内容は、保育の基本方針に沿っている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： <ul style="list-style-type: none"> ・保育理念、保育方針、保育目標を職員会議で周知し、日々意識出来るよう保育室内に掲示してある。 ・保護者にも4月の園たよりや保護者懇談会でお知らせしている。 		

評価項目 I - 1 - (2)

保育課程は、保育の基本方針に基づき、子どもの最善の利益を第一義にして作成されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育課程は子どもの最善の利益を第一義にしている。	
	<input type="radio"/> 保育の基本方針や家庭の状況、地域の実態、周囲の環境を考慮して作成している。	
	<input type="radio"/> 保育課程の作成にあたっては、全職員が関わっている。	
	<input type="radio"/> 保育課程は入園時や年度当初には必ず保護者に説明している。また、改定した時には随時保護者に説明している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： <ul style="list-style-type: none"> ・最善の利益を保障する為にどのような配慮が必要か、毎週の会議で話し合っている。 ・一人ひとりの子どもの成長・発達・情緒面に配慮し計画している。 		

評価項目 I - 1 - (3)

日常の保育を通して子どもの意見や意思を汲み取る努力をし、指導計画に反映させているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育課程に基づき、年齢ごとに指導計画を作成している。	
	<input type="radio"/> 理解できる子どもには、必要なことをきちんと説明し、納得できることを大切にしている。	
	<input type="radio"/> 態度・表情などから子どもの意思を汲み取り、言語化できる子どもからは意見・要望を聞いている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・保育課程に基づき、一人ひとりと丁寧に関わり、他クラスとも連携をとりながら、子ども達に合わせた指導計画を作成している。 ・子どもの自主性、自立性を育てる為、子どもの心に寄り添い、思いを受け止め、言葉でのやり取りを丁寧に行っている。		

評価分類 I - 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施

評価項目 I - 2 - (1)

入園前や入園後すぐに子どもの発達状況や課題を把握しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保護者に面接している。	
	<input type="radio"/> 子どもの様子をよく観察している。	
	<input type="radio"/> 入園までの生育歴や家庭での状況を把握している。	
	<input type="radio"/> 面接時に把握された記録は、日々の保育に活かされている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・0歳児は特に家庭での生活リズムを崩さないよう個々のリズムに合わせて過ごしている。 ・入園前に個人面接を行い面接時で把握したことを職員会議等で周知し、共通認識出来るようにしている。		

評価項目 I - 2 - (2)

新入園児の受け入れ時の配慮を十分しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 短縮保育（ならし保育）が必要な場合は保護者への説明を十分行っている。	
	<input type="radio"/> 0、1歳の新入園児に対しては個別に主担当保育者が決まっている。	
	<input type="radio"/> 子どもが心理的抛り所とする物の持ち込みができる。	
	<input type="radio"/> 子どもの生活の連続性の視点から、保護者へのていねいな連絡をノートで行っている。	
	<input type="radio"/> 在園児への配慮がなされている。	
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・漢字の読めない保護者には、平仮名で記入したり、おたよりは仮名をふっている。 ・2歳児までは、保護者と毎日連絡帳でやり取りを行っている。 ・3歳児以上は、一人一冊シール帳を用意し、いつでもノートのやり取りができるようにしている。		

評価項目 I - 2 - (3)

子どもの発達や状況に応じて指導計画を作成しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもの発達や状況に応じて指導計画の作成・評価・見直しを行っている。	
	<input type="radio"/> 評価、改訂にあたっては、複数の職員が参画して作成している。	
	<input type="radio"/> 評価、改訂にあたっては、保護者の意向も反映している。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・指導計画作成時には、一人ひとりの発達状況を踏まえ、保育所・保育指針に沿って作成している。		

評価分類 I - 3 快適な施設環境の確保

評価項目 I - 3 - (1)

子どもが快適に過ごせるような環境（清潔さ、採光、換気、照明等）への配慮がなされているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育所の屋内・外とも、常に清潔に保たれている。	
	<input type="radio"/> 通風・換気等が確保され、気になる臭いを取り除く工夫をしている。	
	<input type="radio"/> 施設内の温・湿度の管理が日々適切に行われている。	
	<input type="radio"/> 陽光を十分取り入れるよう配慮している。	
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・ウッドデッキやベランダで遊ぶ際は直射日光が当たらないよう遮光ネットを設置している。 ・各部屋に空気清浄機を設置して、施設内の温度、湿度計を見て状況に応じ室内を調節している。		

評価項目 I - 3 - (2)

沐浴設備、温水シャワーなど体を清潔にできる設備があるか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 沐浴設備がある（ただし、0歳児保育実施施設）。	
	<input type="radio"/> 温水シャワーの設備がある。	
	<input type="radio"/> 沐浴・温水シャワー等の設備の管理や清掃が十分に行われている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・沐浴施設が整っておりシャワー後は清掃を行い清潔を保っている。		

評価項目 I-3-(3)

子どもの発達に応じた環境が確保されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	B
	<input type="radio"/> 低年齢児には、小集団保育が行われるよう、保育室の使い方を工夫している。	
	<input type="checkbox"/> 食べる・寝るなどの機能別の空間を確保している。	
	<input type="radio"/> 屋内に異年齢児間の交流の場がある。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・異年齢交流は合同保育の中であるが他クラスを自由に行き来したり、日頃から交流の場を多くもっている。 ・パーテーションを使用しながらコーナー作りを行い、活動に合わせ小集団保育を行っている。		

評価分類 I - 4 一人一人の子どもに個別に対応する努力

評価項目 I - 4 - (1)

子ども一人一人の状況に応じて保育目標を設定し、それに応じた個別指導計画を作成しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	B
	<input type="radio"/> 3歳未満児については、個別指導計画を作成している。	
	<input type="radio"/> 幼児についても、特別な課題がある場合には、個別指導計画を作成している。	
	<input type="radio"/> 個別の目標・計画は定期的（月1回を目安）に見直すのみでなく、子どもの発達状況に合わせ、柔軟に変更・見直しを行っている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・0,1,2歳児は月案の中で個別計画を作成し、子どもの成長に合わせた計画にしている。 ・個々の対応については、会議と月1回の職員会議で周知し、全職員の意見も取り入れている。 ・保護者との個人面談を実施し、個別指導計画に反映している。		

評価項目 I - 4 - (2)

子ども一人一人の発達の過程に応じた対応をし、その記録があるか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当した上で、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもや家庭の個別の状況・要望を決められた書式に記録している。	
	<input type="radio"/> 入園後の子どもの成長発達記録がある。	
	<input type="radio"/> 子どもの記録内容は全職員が共有できるしくみになっている。	
B	保育所児童保育要録を小学校に送付している。その上でAの中で2つ以上に該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または、該当しない。	
その他の工夫事例： ・保育記録、児童票や個人記録など全職員が閲覧できるようになっている。		

評価分類 I - 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み

評価項目 I - 5 - (1)

特に配慮を要する子どもを受け入れ、保育する上で必要な情報が職員間で共有化されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当した上で、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 個別のケースについて会議で話し合わせ、記録がある。	
	<input type="radio"/> 最新の情報を職員間で学習し、保育に活かしている。	
	<input type="radio"/> 共有する情報は記録され、いつでも確認できるようファイリングされている。	
B	特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れる姿勢がある。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・特別支援児に対する外部研修に参加し、職員会議で研修報告を行い、全職員で周知している。		

評価項目 I - 5 - (2)

障害児保育のための環境整備、保育内容の配慮を行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> バリアフリーなど、障害児保育のための環境整備に配慮している。	
	<input type="radio"/> 保護者の同意を得て、医療機関や専門機関から助言や情報が得られる体制をとっている。	
	<input type="radio"/> 障害の特性を考慮した個別指導計画が立てられている。	
	<input type="radio"/> 障害児保育について全職員で学習し、話し合える体制ができている。	
	<input type="radio"/> 障害児と他の子どもとの関わりに配慮をしている。	
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
過去3年間 その他の工夫事例： ・今現在障害児はいないが、該当児がいれば、その子に合った援助につながるよう、計画を立てたり、専門機関から助言を聞くようにしている。		

評価項目 I-5-(3)

虐待を疑われる子どもの早期発見と適切な対応を心がけているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 虐待の定義が全職員に周知されている。	
	<input type="radio"/> 虐待が明白になった場合に、関係機関に迅速に通告・相談する体制を整えている。	
	<input type="radio"/> 疑わしい場合や見守りが必要な場合は関係機関との連携をとっている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： <ul style="list-style-type: none"> ・虐待について園内研修を行っている。 ・朝の視診や着替え時等、一人ひとりの様子をしっかりと見ている。 		

評価項目 I-5-(4)

アレルギー疾患のある子どもへの適切な対応ができているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どものかかりつけ医の指示を受け、適切な対応を行っている。	
	<input type="radio"/> 全職員にアレルギー疾患についての必要な知識や情報が周知されている。	
	<input type="radio"/> 食物アレルギーにおいては、保護者との連携を密にし、除去食を提供している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
過去3年間の受け入れ状況		
その他の工夫事例： <ul style="list-style-type: none"> ・除去食について、保護者と面談を行い、アレルギー児には、専用トレイ、食器、名札を使用し、毎日、食事を提供し間違いがないように声掛け確認をしている。 ・食物アレルギー対応マニュアルを全職員が周知している。 		

評価項目 I - 5 - (5)

外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対して適切な配慮がされているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 文化（言語・表現・食事）や生活習慣、考え方の違いを認め尊重している。	
	<input type="radio"/> 文化や生活習慣の違いを他の子どもたちが理解できるよう配慮している。	
	<input type="radio"/> 意思疎通が困難な場合の対応策がある。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
過去3年間の受け入れ状況 ・中国…6名 アメリカ…1名 台湾…1名 イギリス…1名		
その他の工夫事例： ・区の通訳ボランティア制度を利用し、保護者との意思疎通をはかっている。 ・おたよりなどは、訳したり、平仮名をふったり、理解できるように工夫している。		

評価分類 I - 6 苦情解決体制

評価項目 I - 6 - (1)

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当した上で、次の全てに該当する。	B
	<input type="radio"/> 第三者委員に、直接苦情を申し立てることができる。	
	<input type="radio"/> 保護者に対して、意見箱・懇談会・アンケート等で進んで要望や苦情を聞いている。	
	<input type="radio"/> 自分で意見を表明するのが困難な園児や保護者に対して具体的な配慮がなされている。	
	権利擁護機関など他機関の苦情解決窓口を紹介している。	
B	要望・苦情を受け付ける担当者が決まっており、事前に保護者に説明されている。	
C	要望・苦情の受付窓口が明確にされていないなど、取り組みが不十分である。	
その他の工夫事例： ・苦情はBOXに入れやすい様、皆が分かりやすい場所に置いてある。 ・行事の後、保護者からアンケートを取り、感想・意見・要望を受け、次年度の行事に活かしている。		

評価項目 I - 6 - (2)

要望や苦情等を受けて、迅速に対応できる仕組みになっているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 第三者委員を交えて対応する仕組みができている。	
	<input type="radio"/> 園単独で解決困難な場合には、外部の権利擁護機関や相談機関との連携体制がつくられている。	
	<input type="radio"/> 要望や苦情の解決策が会議等を通じて職員に理解・周知されている。	
	過去の苦情・トラブルや要望のデータを蓄積・整理し、解決に活かしている。	
B	要望や苦情を受け付け対応するためのマニュアル等文書化されたものが整備されている。	
C	マニュアル等文書化されたものが整備されておらず取り組みが不十分である。	
その他の工夫事例： ・意見・要望・苦情・不満を解決するための規程を整備している。		

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類Ⅱ－1 保育内容

【遊び】

評価項目Ⅱ－1－(1)

子どもが主体的に活動できる環境構成（おもちゃ・絵本、教材、落ち着いて遊べるスペースなど）ができているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもがおもちゃや教材等を自分で取り出して遊べるようになっている。	
	<input type="radio"/> 年齢や発達にふさわしい環境構成に配慮している。	
	<input type="radio"/> 子どもがそれぞれ落ち着いて遊べる環境を確保している。	
	<input type="radio"/> 子どもが自分の好きなことをして遊び込める時間が十分に確保されている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・狭い空間を最大限に工夫した環境を整え、職員間で連携を図り、異年齢で遊んでいる。 ・子どもが玩具を取り出しやすい高さの棚を設置し、好きな玩具を取り出させるようにしている。		

評価項目Ⅱ－1－(2)

遊びが一斉活動に偏らないよう配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもの自由な発想を受け止め、それを集団活動に取り入れている。	
	<input type="radio"/> 子どもがそれぞれ自由にごっこ遊びをしたり、落ち着いて一人で遊んだりしている。	
	<input type="radio"/> 一斉活動は、みんなで一緒に遊ぶ楽しさとともに、友達関係やルールを守る等の社会性を重視して、年齢に応じて取り入れている。	
	<input type="radio"/> 自由遊びの中で一人一人が興味・関心を持って遊べるよう、保育士が援助している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・年齢に応じてルールのある遊びを取り入れ、子どもが興味を持った遊びを、行事の内容につなげていくなど工夫している。 ・お散歩時に交通ルールを覚え、道徳性を身に付けている。		

評価項目Ⅱ－１－（３）

動植物の飼育や栽培・園外活動など、自然に触れたり地域や社会に関わる体験が取り入れられているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 栽培や飼育を通して得られる体験を、保育活動にフィードバックしている。	
	<input type="radio"/> 子どもたちが散歩等で、日常的に地域の大人や子どもたちと挨拶・会話を交わしている。	
	<input type="radio"/> 園外活動で地域を知り、自然に触れる機会を積極的に設けている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： <ul style="list-style-type: none"> ・栽培した野菜や果物を収穫し、食育へとつなげている。 ・めだかを飼育しており水換え、餌やりを子どもと行っている。 		

評価項目Ⅱ－１－（４）

子どもが歌やリズム、絵や文字、からだを動かすなどの体験を通して、自分の気持ちを自由に表現できるよう配慮されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもの年齢や発達状況にあわせて自由に表現できるよう配慮している。	
	<input type="radio"/> 子どもが自発的に表現するよう様々な素材を用意するなど、自由に使えるよう配慮されている。	
	<input type="radio"/> 子どもが自由に歌ったり、絵を描いたりしている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： <ul style="list-style-type: none"> ・ピアノや木琴など自由に使えるになっている。 ・折り紙、自由画帳、新聞紙、廃材など、いろいろな素材の物が保育室にあり、のりやセロテープやペン、色鉛筆などの道具も自由に使えるようにしている。 		

評価項目Ⅱ-1-(5)

遊びを通して子ども同士の関係や保育士との関係が育つよう配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子ども同士のけんか等については、危険のないよう見守りながら、子ども同士で解決ができるよう援助している。	
	<input type="radio"/> 異年齢の子ども同士が関わりを持てるよう配慮している。	
	<input type="radio"/> 職員は、常に公平で温かい態度・言葉遣い等で子どもに接し、信頼関係を築いている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・子どもの思い、気持ちをしっかりと受け止め、保育者が仲立ちをして考え、子どもの自主性、思いやり、信頼関係を築けている。		

評価項目Ⅱ-1-(6)

積極的な健康増進の工夫が遊びの中でなされているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 散歩や屋外活動などを積極的に取り入れている。	
	<input type="radio"/> 散歩や屋外活動などを行う際には、紫外線対策やアレルギーへの対処を行っている。	
	<input type="radio"/> 発達過程に応じて、運動能力を高められるような遊びの環境を意識してつくっている。	
<input type="radio"/> 子どもの既往歴や健康状態に合わせた遊びを工夫している。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・戸外に出る際は（ネックガードの）帽子をかぶり、紫外線対策を行っている。 ・ウッドデッキで遊ぶ際には遮光ネットの下で遊べるようにしている。		

[生活]

評価項目Ⅱ－１－(7)

食事を豊かに楽しむ工夫をしているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育士が、子どもの負担になるほどに残さず食べることを強制したり、偏食を直そうと叱ったりしていない。	
	<input type="radio"/> 乳児の授乳にあたっては、ほしがる時に、抱っこして声をかけながら与えるようにしている。	
	<input type="radio"/> 授乳するときや離乳食を食べさせる時は、子どものペースを尊重している。	
	<input type="radio"/> 子どもが自分から食べようとする意欲や行動を大切にしながら、適切な言葉かけや援助をしている。	
<input type="radio"/> 子どもたちが食事及びその過程（調理・配膳・片づけ）に関心を持つよう工夫している。		
B	Aの中でいずれか3つは該当する。対象乳児がない場合は2つは該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。対象乳児がない場合は1つは該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・幼児クラスは、配膳の手伝いをしたい子が行い、食べ終わった食器の片付けを自分で行っている。 ・栄養士が、幼児クラスはで箸の使い方指導を行っている。		

評価項目Ⅱ－１－(8)

食事の場、食材、食器等に配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 季節感がある献立や食欲がわくような盛りつけなどの食事作りに配慮している。	
	<input type="radio"/> 食事の場としての雰囲気づくりに配慮している。	
	<input type="radio"/> 食材や食器の安全性に配慮している。	
<input type="radio"/> 子どもの成長・発達や用途に即した食器を使用している。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・食器は年齢に合った温かみのある、安全性の高い陶器の物を使用している。 ・クッキングや皮むき、野菜洗いなど、年齢に合った食育活動を行っている。		

評価項目Ⅱ－１－(9)

子どもの喫食状況を把握して、献立の作成・調理の工夫に活かしているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもの好き嫌いを把握し、盛り付けや調理方法を工夫している。	
	<input type="radio"/> 栄養士や調理担当者が、子どもたちの食事の様子を見る機会を設けている。	
	<input type="radio"/> 残食を調査記録し、献立・調理の工夫に反映させている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・定期的に栄養士が食事の様子を見に来て連携を取っている。 ・野菜を栽培し食育活動に反映している。		

評価項目Ⅱ－１－(10)

子どもの食生活について、家庭と連携しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 献立表を作成し、事前に配布している。	
	<input type="radio"/> 献立作成のポイントを明記した情報提供を行っている。	
	<input type="radio"/> 定期的にレシピを提示し、保護者に保育所で提供する食事に対する関心をもてるようにしている。	
<input type="radio"/> 保護者が試食できる機会等を設けて、栄養・味付け・食べ方（噛み方）等、保育所で配慮していることを知らせている。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・給食のサンプル（写真）を掲示している。 ・入園児に離乳食試食会を設け、一人ひとりの発達にあう食事を提供できるよう保護者と話し連携を取っている。 ・献立表は、離乳食、幼児食、アレルギー食を別で作成し、毎月、給食たよりも発行し配布している。 ・乳児クラスは、毎日、個人の連絡ノートに食べた量を記載している。		

評価項目Ⅱ－１－（１１）

午睡・休息は発達や日々の子どもの状況に応じて対応しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 眠れない子ども、眠くない子どもには午睡を強要せず、静かに過ごさせるなど柔軟な対応をしている。	
	<input type="radio"/> 安心して心地よい眠りにつけるよう、午睡・休息の場を工夫している。	
	<input type="radio"/> 乳幼児突然死症候群に対する対策を行っている。	
	<input type="radio"/> 年長児には適当な時期から午睡を一斉活動としていない。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・SIDS予防に、0歳は5分、1.2歳児は10分ごとに呼吸の確認を行いチェック表に記入している。 ・乳児、幼児ともうつぶせ寝はしないようにしている。 ・眠れない子どもは、午睡を強要せず、布団の上で静かに過ごしたり、図書コーナーで過ごすこともある。 ・乳児は個々の生活リズムに合わせて入眠出来るようにしている。		

評価項目Ⅱ－１－（１２）

排泄は個人差があることを十分に配慮して対応しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 一人一人の排泄のリズムをとらえ、個人差を尊重している。	
	<input type="radio"/> トイレトレーニングは一人一人の発達状況に応じて個別に対応している。	
	<input type="radio"/> 保育所での排泄状況を保護者に伝え連携を密にしている。	
	<input type="radio"/> おもらしをした子どもを激しく叱ったり、心を傷つけるような対応をしてはならないことを、全職員が認識している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・トイレトレーニング開始時は、一人ひとりの発達状況に応じて個別に対応している。また、ノートに排尿（時間を）間隔を記入し伝えている。		

評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理

[健康管理]

評価項目Ⅱ－２－(1)

子どもの健康管理は、適切に実施されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人一人の健康状態を把握している。	
	<input type="radio"/> 既往症について常に保護者から情報を得られるように努め、対応を関係する職員に周知している。	
	<input type="radio"/> 必要に応じて園での子どもの健康状態を保護者に伝え、降園後の対応について話し合っている。	
	<input type="radio"/> 食後の歯磨き指導を行っている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科健診でのブラッシング指導を行っている。 ・ 給食後も歯みがきを行い、毎日、自宅に持ち帰り、衛生的に管理している。 ・ 毎朝、全身の視診を行い、保護者と連携を取っている。 		

評価項目Ⅱ－２－(2)

健康診断・歯科健診の結果を保育に反映させているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 一人一人の健康診断・歯科健診の記録がある。	
	<input type="radio"/> 健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝え、連携を密にしている。	
	<input type="radio"/> 健診結果に基づき、嘱託医やかかりつけ医との連携を図っている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例：		

評価項目Ⅱ－２－(3)

感染症等への対応に関するマニュアルがあり、保護者にも徹底しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 登園停止基準や保育中に感染症等の疑いが生じた場合の対応がマニュアルに明記され、保護者に周知している。	
	<input type="radio"/> 保育中に発症した時は、保護者への連絡をすみやかにし、対応については保護者の事情も考慮している。	
	<input type="radio"/> 感染症が発生した時は、速やかに保護者に情報提供している。	
	<input type="radio"/> 感染症に関する最新情報を職員が共有している。	
B	感染症等への対応に関するマニュアルがある。	
C	感染症等への対応に関するマニュアルがなく、取り組みが不十分である。	
その他の工夫事例： ・感染症が発生した時は掲示している。 ・入園時に伝染病に関する資料を配布し、園全体で共通周知している。		

[衛生管理]

評価項目Ⅱ－２－(4)

衛生管理が適切に行われているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> マニュアルは、職員参加により定期的（内容により異なるが、最低年1回を目安）に見直しを行っている。	
	<input type="radio"/> マニュアルの内容を全職員が共有するため、定期的（採用時に1回、採用後は最低年1回）に研修を実施するなど、具体策を講じている。	
	<input type="radio"/> マニュアルに基づき清掃等が行われ、清潔・適切な状態が保たれている。	
B	衛生管理に関するマニュアルがある。	
C	衛生管理に関するマニュアルがなく、取り組みが不十分である。	
その他の工夫事例： ・鼻水をかんだ場合は、感染を防ぐ為、ティッシュをポケットにしまわずゴミ箱に入れ、必ず手のアルコール消毒をするようにしている。 ・マニュアルに基づき、保育室内外の清掃が行なわれている。 ・衛生管理マニュアルを整備し、研修を行っている。 ・全室掃除チェック表を毎日、記入している。年2回の掃除と害虫駆除を行っている。		

[安全管理]

評価項目Ⅱ－２－(５)

安全管理に関するマニュアルがあり、事故や災害に備えた安全対策が実施されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 地震等を想定し、備品等の転倒防止など安全対策を講じている。	
	<input type="radio"/> マニュアルは、事故や災害に適切に対応しており、全職員に周知されている。	
	<input type="radio"/> 緊急連絡体制が確立している。	
	<input type="radio"/> 通報や連絡体制の予行演習、地域の避難場所等への誘導などの訓練を実施している。	
	<input type="radio"/> 職員が救急救命法を身につけている。	
B	安全管理に関するマニュアルがあり、Aの中で3つ以上該当する。	
C	安全管理に関するマニュアルがない。または、Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・消防署と連携し、定期的に救命救急法の講習を行なっている。 ・園内にAEDを設置している。 ・避難先の小学校にも備蓄品を置かせてもらっている。 ・近隣の会社に災害時の応援体制を整えている。		

評価項目Ⅱ－２－(６)

事故や怪我の発生時及び事後の対応体制が確立しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保護者や救急機関、地域への連絡体制が確立している。	
	<input type="radio"/> 子どものケガについては、軽傷であっても必ず保護者に状況を報告し、記録している。	
	<input type="radio"/> 職員会議などで事故の報告、再発防止策の検討が行われ改善策が実行されている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・安全管理マニュアルを整備し周知している。 ・事故報告書、ヒヤリハットし、再発防止に心掛けている。 ・怪我があった場合、すぐに医療機関が分かるよう一覧表にしている。		

評価項目Ⅱ－２－（７）

外部からの侵入に対する対応策が整備されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 不審者等の侵入防止策（出入り口の施錠等）が講じられている。	
	<input type="radio"/> 不審者等に対する緊急通報体制が確立されている。	
	<input type="radio"/> 不審者の情報が関係機関、近隣住民等から得られるネットワークができている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・不審者侵入を想定した防災訓練を実施している。 ・ICカードによる入退室管理を行い、安全面を重視している。 ・送迎者が変わった場合は連絡を入れて頂き、事前に写真を持参するか、身分証明書を提示して頂いている。		

評価分類Ⅱ－３ 人権の尊重

評価項目Ⅱ－３－（１）

保育中の子どもの呼び方や叱り方などで、子どもの人格尊重を意識しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもに対して威圧的な言葉遣い、無視が行われないよう、職員間で相互に配慮している。	
	<input type="radio"/> せかしたり強制したりせず、おだやかに分かりやすい言葉で話をしている。	
	<input type="radio"/> 子どもの気持ちや発言を受け入れられるよう配慮している。	
	<input type="radio"/> 子どもの人格を辱めるような罰を与えたり、自尊心を傷つけるような保育を行ってはならないことを、全職員が認識している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・子どもの最善の利益を保証する保育を行い、一人ひとりの個性を尊重する関わりをしている。 ・子どもの名前の呼び方はちゃん、くんを基本としてニックネームは保護者が実際に呼んでいる呼びかたにしている。		

評価項目Ⅱ-3-(2)

必要に応じてプライバシーが守れる空間を確保できるような工夫がされているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 友達や保育士の視線を意識せず過ごせる場所がある。	
	<input type="radio"/> 必要に応じて、子どもに威圧感を与えず一対一で話し合える場所がある。	
	<input type="radio"/> 必要に応じて、プライバシーを守れる場所を用意することができる。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・一対一で落ち着いて話をする機会があるときは、図書コーナー等を使用している。		

評価項目Ⅱ-3-(3)

個人情報の取り扱いや守秘義務について、職員等に周知しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 守秘義務の意義や目的を全職員（ボランティア・実習生含む）に周知している。	
	<input type="radio"/> 個人情報の取り扱いについてガイドラインをつくり、全職員に周知している。	
	<input type="radio"/> 個人情報の取り扱いについて、保護者に説明し了解を得ている。	
	<input type="radio"/> 個人情報に関する記録は施錠できる場所に保管、管理している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・個人情報保護規定が整備されており職員は周知している。		

評価項目Ⅱ-3-(4)

性差への先入観による役割分業意識を植え付けないよう配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 遊びや行事の役割、持ち物、服装などで性別による区別をしていない。	
	<input type="radio"/> 順番、グループ分け、整列など性別にしている。	
	<input type="radio"/> 子どもや保護者に対して、父親・母親の役割を固定的にとらえた話し方、表現をしないようにしている。	
	<input type="radio"/> 無意識に性差による固定観念で保育をしていないか、職員同士で反省する仕組みをつくっている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・グループ分けや順番決めや色きめ等、性別にはせず、子どもの意思を尊重している。		

評価分類Ⅱ－４ 保護者との交流・連携

評価項目Ⅱ－４－(1)

保護者が保育の基本方針を理解できるよう努力しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保護者に対しては、全体会または懇談会などで説明する機会を設けている。	
	<input type="radio"/> 保護者に対して、園独自のアンケートなどで保育方針が理解されているかどうか把握している。	
	<input type="radio"/> 日常保育の中で、園だよりや連絡帳などで保育方針が理解されるよう努力している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・入園説明会や懇談会で園の教育方針を伝えている。		

評価項目Ⅱ－４－(2)

個々の保護者との日常的な情報交換に加え、個別面談等を行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもの送迎時に、その日の子どもの様子を伝えるよう配慮している。	
	<input type="radio"/> 連絡帳やメールなどできめ細かに情報交換を実施している。	
	<input type="radio"/> 保護者の意向を踏まえて個別面談を実施している。	
	<input type="radio"/> クラス全体の様子を伝える保護者懇談会等を実施している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・懇談会を年2回行い、個別面談を年1回行っている。 ・保護者に送迎時、子どもの様子を伝え、一緒に成長を喜び信頼関係を大切にしている。		

評価項目Ⅱ－４－(3)

保護者の相談に応じているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 相談内容などを人に聞かれないで相談できるよう、配慮している。	
	<input type="radio"/> 相談を受けた職員が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制になっている。	
	<input type="radio"/> 相談は記録し、継続的なフォローができています。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・相談の内容に応じ、園長・主任に助言を受け適切な対応ができるよう配慮している。		

評価項目Ⅱ－４－(4)

保育内容（行事を含む）など子どもの園生活に関する情報を提供しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 「園だより」などを定期的に発行している。	
	<input type="radio"/> 園内に、その日の保育の様子を知らせる情報を掲示している。	
	<input type="radio"/> クラスごとの保護者懇談会などで、保育内容・目的を分かりやすく説明し情報提供を図っている。	
<input type="radio"/> ビデオや写真などを撮って、日常の保育の様子を伝える努力をしている。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・子どもの成長が分かるように、写真を掲示したりしている。 ・年1回、保護者に保育参加して頂き子どもの様子を見てもらう日を設けている。		

評価項目Ⅱ－４－(5)

保護者の保育参加を進めるための工夫をしているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 年間行事予定であらかじめ日時を知らせ、保護者が保育参加のための休暇等の予定を立てやすくしている。	
	<input type="radio"/> 保育参観または保育参加を積極的に受け入れている。	
	<input type="radio"/> 保育参観、懇談会等に出席できなかった保護者へのフォローを行っている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・1年を通して、要望に応じ保育参観、参加ができるようにしている。 ・年度初めに年間行事予定表を配布し、変更がある場合は、掲示や、一斉メールでお知らせをしている。		

評価項目Ⅱ－４－(6)

保護者の自主的な活動への援助や意見交換を行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保護者が自主的な活動をできるように場所等の提供をしている。	
	<input type="radio"/> 保護者の活動に要請があれば職員も参加をしている。	
	<input type="radio"/> 保護者（組織）とは常にコミュニケーションをとっている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・保護者の組織はないが運営委員会を設け会議を行ない、連携を取っている。		

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供

評価項目Ⅲ－１－(1)

地域の子育て支援ニーズを把握するための取り組みを行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	B
	<input type="checkbox"/> 地域住民との交流の中で、施設に対する要望を把握するための具体策を講じている。	
	<input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業を通じて把握している。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて関係機関や他施設との検討会・研究会を行っている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・運営委員会を設け、町内会長と婦人部長と連携を取り、地域とも交流を深める中で、園に対する要望を聞くようにしている。		

評価項目Ⅲ－１－(2)

地域の子育て支援ニーズに応じて施設の専門性を活かしたサービスを提供しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	B
	<input type="checkbox"/> 地域の子育て支援ニーズについて、定期的（年に1回程度）に職員間で話し合われている。	
	<input type="checkbox"/> 地域での子育てを支援するためのサービス（一時保育、交流保育、園庭開放等）を提供している。	
	<input type="checkbox"/> 地域住民に向けて子育てや保育に関する講習・研修会を開催している。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例：		

評価分類Ⅲ－２ 保育所の専門性を活かした相談機能

評価項目Ⅲ－２－(1)

地域住民への情報提供や育児相談に応じているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	B
	<input type="radio"/> 情報提供や育児相談を実施している。	
	<input type="radio"/> 育児相談については、定期的（最低週に1回）に相談日を設けて対応している。	
<input type="radio"/> 保育所からのお知らせを地域に回覧するなどして、情報提供に努めている。		
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・園見学時や図書貸し出し時に、育児相談を受けている。		

評価項目Ⅲ－２－(2)

相談内容に応じて関係諸機関・団体との連携ができる体制になっているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 必要な関係機関・地域の団体等をリスト化する等により情報を職員が共有している。	
	<input type="radio"/> 関係機関との連携の担当者が決められている。	
<input type="radio"/> 関係機関・団体等との日常的な連携ができている。		
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例：		

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類Ⅳ－１ 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ

評価項目Ⅳ－１－(1)

保育所に対する理解促進のための取り組みを行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	B
	<input type="checkbox"/> 保育所の行事に地域住民を招待している。	
	<input type="checkbox"/> 自治会・町内会、学校、ボランティアグループ等と協力して行事を行うなど、地域の団体、機関と定期的（年1回以上）、計画的に交流を図っている。	
	<input type="checkbox"/> 小中高等学校など、学校教育との連携を積極的に図っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域への施設開放や備品等の貸し出しを行っている。	
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： <ul style="list-style-type: none"> ・地域の夏祭りには、参加している。 ・地域の方に絵本の貸し出しを行っている。 		

評価項目Ⅳ－１－(2)

子どもと地域との交流により、子どもの生活の充実と地域の理解を深めているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="checkbox"/> 地域の文化・レクリエーション施設等を利用している。	
	<input type="checkbox"/> 日常的に地域の人達と接する機会（散歩・買い物等）に積極的に交流を図っている。	
	<input type="checkbox"/> 日常的に他の保育所・学校・福祉施設等との交流を図っている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例：		

評価分類Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供

評価項目Ⅳ－２－(1)

将来の利用者が関心のある事項についてわかりやすく情報を提供しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	<input type="radio"/> 次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育所のパンフレット・広報誌・ホームページ等により、地域や関係機関に随時、情報を提供している。	
	<input type="radio"/> 外部の情報提供媒体に対して保育所の情報を提供している。	
<input type="radio"/> 保育所として、すすんでサービス内容の詳細、料金、職員体制等、必要な情報を提供している。		
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・区役所の掲示板に保育園の情報を記入したポスターを掲示している。		

評価項目Ⅳ－２－(2)

利用希望者の問い合わせや見学に対応しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	<input type="radio"/> Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育所の基本方針や利用条件・サービス内容等についての問い合わせに対しては、常時対応できるようになっている。	
	<input type="radio"/> 利用希望者に見学ができることを案内している。	
<input type="radio"/> 保育に支障をきたさない範囲で、曜日や時間は見学希望者の都合に対応している。		
B	保育所の基本方針や利用条件・サービス内容等について、パンフレット等の資料や文書に基づいて説明している。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・見学日は平日で行っているが、保育に支障のない範囲で、見学希望者の都合に対応している。		

評価分類Ⅳ－3 ボランティア・実習の受け入れ

評価項目Ⅳ－3－(1)

ボランティアの受け入れや育成を積極的に行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 受け入れにあたり、あらかじめ職員や利用者に基本的考え方・方針が理解されるよう説明している。	
	<input type="radio"/> 受け入れと育成の担当者が決められており、受け入れ時の記録が整備されている。	
	<input type="radio"/> ボランティアの感想や意見を園運営に反映させている。	
B	受け入れのためのマニュアル等があり、それに基づきボランティアに対して保育所の方針、利用者への配慮等を十分説明している。	
C	受け入れのためのマニュアル等がなく、取り組みが不十分である。	
その他の工夫事例： ・保育士・幼稚園教諭養成校の附属保育園の為、実習生の受け入れをしている。		

評価項目Ⅳ－3－(2)

実習生の受け入れを適切に行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 受け入れにあたり、あらかじめ職員や利用者に必要な考え方・方針が理解されるよう説明している。	
	<input type="radio"/> 受け入れのための担当者が決められており、受け入れ時の記録が整備されている。	
	<input type="radio"/> 実習目的に応じた効果的な実習が行われるためにプログラム等を工夫している。	
B	受け入れのためのマニュアル等があり、それに基づき実習生に対して保育所の方針、利用者への配慮等を十分説明している。	
C	受け入れのためのマニュアル等がなく、取り組みが不十分である。	
その他の工夫事例：		

評価領域 V 人材育成・援助技術の向上

評価分類 V-1 職員の人材育成

評価項目 V-1-(1)

保育所の理念や方針に適合した人材を育成するための取り組みを行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育所運営に十分な人材構成であるかをチェックし、必要な人材の補充を逐次行っている。	
	<input type="radio"/> 保育所の理念・方針をふまえた保育を実施するよう、人材育成の計画が策定されている。	
	<input type="radio"/> 個々の職員の資質向上に向けた目標を毎年定め、達成度の評価が行われている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・年度初めに各自が目標を設定し、年度末に振り返りを行っている。		

評価項目 V-1-(2)

職員・非常勤職員の研修体制が確立しているか

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 内部研修が定期的実施され、職員・非常勤職員とも必要な職員が必ず受講できる。	
	<input type="radio"/> 園外の研修会、大会等への参加、他の福祉施設での実地研修等が積極的に行われている。	
	<input type="radio"/> 研修の成果を職場で活かすための工夫がされている。	
B	職員の研修ニーズにも配慮し、研修担当者が研修計画を作成している。	
C	保育所としての研修計画を作成しておらず、取り組みが不十分である。	
その他の工夫事例： ・園外研修へ積極的に参加し、研修内容を職員会議で報告する事で、全体で保育の質が向上できるようにしている。		

評価項目 V-1-(3)

非常勤職員等にも日常の指導を行っているか

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 業務にあたっては職員と非常勤職員の組み合わせなどの配慮をしている。	
	<input type="radio"/> 非常勤職員に対し、職員と同様に資質向上への取り組みを行っている。	
	<input type="radio"/> 非常勤職員の指導担当者が定められ職員間のコミュニケーションが図られている。	
B	非常勤職員にも業務マニュアルが配布されている。	
C	業務マニュアルもなく、取り組みが不十分である。	
その他の工夫事例： ・非常勤職員には、職員会議録や、その他配布物など連絡事項は全て配布し、情報共有を図っている。 ・救急法研修や、エピペン研修などの園内研修にも全職員が参加している。		

評価分類 V-2 職員の技術の向上

評価項目 V-2-(1)

職員のスキルの段階にあわせて計画的に技術の向上に取り組んでいるか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 職員の振り返りや、保育所の自己評価を計画的に行う仕組みを持っている。	
	<input type="radio"/> 工夫・改善した良いサービス事例をもとに、一層のサービス向上を目指した会議・勉強会が開かれている。	
	<input type="radio"/> 必要に応じて外部から保育の技術の評価・指導等を受ける仕組みがある。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・年度終わりに自己評価を行い、保育を振り返っている。		

評価項目 V-2-(2)

保育士等が保育や業務の計画及び記録を通してみずからの実践を振り返り、改善に努める仕組みがあるか。

判断基準		評価 (A・B・C)
	次の全てに該当する。	A
○	保育士等一人一人が、自己の実践の振り返りをし、文章化できるように計画や記録の書式が定型化されている。	
○	振り返りは、計画で意図した保育のねらいと関連付けて行われている。	
○	保育の振り返りは、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの育ちや意欲、取り組む過程などを重視して行っている。	
○	保育士等一人一人が振り返りを通して自己の実践を評価し、改善やその後の計画作成に反映させている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例：		

評価項目 V-2-(3)

保育士等の自己評価を踏まえ、保育所としての自己評価を行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
	次の全てに該当する。	A
○	保育士等の振り返りの結果を互いに報告し合い、話し合っている。	
○	保育士等の振り返りの結果から、保育所としての課題を明らかにし、改善に取り組んでいる。	
○	保育所としての自己評価は、保育所の理念や保育の方針、保育課程に沿って行われている。	
○	保育所としての自己評価を公表している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例：		

評価分類V-3 職員のモチベーションの維持

評価項目V-3-(1)

本人の適性・経験・能力に応じた役割を与え、やりがいや満足度を高めているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ 次の全てに該当する。	A
	○ 経験・能力や習熟度に応じた役割が期待水準として明文化されている。	
	○ 利用者の状況に応じ自主的に判断できるように、現場の職員に可能な限り権限を委譲し、責任を明確化している。	
	○ 職員から業務改善の提案を募ったり、意見を聴取するためのアンケートなどを実施している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・乳児部・幼児部リーダーを置き、円滑な連携を行えている。		

評価領域VI 経営管理

評価分類VI-1 経営における社会的責任

評価項目VI-1-(1)

事業者として守るべき、法・規範・倫理等を周知し実行しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 組織及び職員が不正・不適切な行為を行わないよう守るべき法・規範・倫理等が明文化され職員に周知されている。	
	<input type="radio"/> 経営、運営状況等の情報が積極的に公開されている。	
	<input type="radio"/> 施設での不正、不適切な事案を題材とした研修を行い、それらの行為を行わないよう啓発している。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・運営方針や法令遵守について全職員が周知している。		

評価項目VI-1-(2)

サービスの質を維持しつつゴミ減量化・リサイクル・省エネルギーの促進、緑化の推進など環境に配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> ゴミ減量化・リサイクルのための取り組みを行っている。	
	<input type="radio"/> 省エネルギーの促進・緑化の推進などの取り組みを行っている。	
	<input type="radio"/> 環境配慮の考え方、取り組みが明文化され、運営に活かされている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例：		

評価分類VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等

評価項目VI-2-(1)

保育所の理念や基本方針等について職員に周知されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 理念・基本方針を明文化したものを掲示または職員に配布している。	
	<input type="radio"/> 職員に朝礼・会議等で周知し、理解を促すための説明をしている。	
	<input type="radio"/> 理念・基本方針を職員が理解できているか、園長・主任が定期的（採用時1回、採用後は最低年1回）に確認している。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・各保育室に、理念・方針・目標を掲示している。		

評価項目VI-2-(2)

重要な意思決定にあたり、関係職員・保護者等から情報・意見を集めたり説明しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 重要な意思決定にあたり、園長は保護者と継続的に意見交換をしている。	
	<input type="radio"/> 重要な意思決定（変更）について、職員及び保護者に目的・決定（変更）理由・経過等を十分に説明している。	
	<input type="radio"/> 異なる部門の職員による検討チームを編成し組織をあげて取り組むしくみがある。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・行事時のアンケートを利用して、より良い組織作りを行っている。		

評価項目VI-2-(3)

主任クラスの職員がスーパーバイザーとしての役割を果たしているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> スーパーバイズのできる主任クラスを計画的に育成するプログラムがある。	
	<input type="radio"/> 主任が個々の職員の業務状況を把握できるしくみがあり、有効に機能している。	
	<input type="radio"/> 主任は個々の職員の能力や経験にあわせた確かな助言や指導を行っている。	
<input type="radio"/> 主任は個々の職員が精神的・肉体的に良好な状態で仕事に取り組めるよう、具体的な配慮を行っているか。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例：		

評価分類VI-3 効率的な運営

評価項目VI-3-(1)

外部環境の変化等に対応し、理念や基本方針を実現するための取り組みを行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 事業運営に影響のある情報を収集・分析している。	
	<input type="radio"/> 重要な情報は幹部職員や主要な職員間で共有するため会議等で議論し、重点改善課題として設定されている。	
	<input type="radio"/> 運営面での重要な改善課題について、職員に周知し、保育所全体の取り組みとしている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例：		

評価項目VI-3-(2)

保育所運営に関して、中長期的な計画や目標を策定しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 中長期的な事業の方向性を定めた計画を作成している。	
	<input type="radio"/> 次代の組織運営に備え、運営やサービスプロセスの新たなしくみを常に検討している。	
	<input type="radio"/> 次代の施設運営に備え、幹部職員は計画的に後継者を育成している。	
	<input type="radio"/> 運営に関し、外部の機関や専門家などの意見を取り入れる努力をしている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例：		